

来春のダイヤ見直しについて

新型コロナウイルス感染症の影響によりお客様のご利用は依然として大きく減少しており、回復の見通しが立たない状況が続いております。GoToキャンペーンなどによる鉄道利用促進には期待するものの、都市間輸送はインバウンドにも多くご利用いただいていたため、ご利用回復には相当時間がかかることが予想されます。また、テレビ・Web会議の普及などによりライフスタイルが変化しており、出張などビジネス利用や夜間帯の利用減少が今後も続くことが予想されます。

そのため、ご利用状況にあわせたダイヤ見直しを検討いたしますのでお知らせします。

1 見直しのポイント

- ご利用が大きく減少している列車を中心に、ご利用にあわせた減便・減車や定期列車の臨時列車化を検討する
- 都市間輸送をはじめ、札幌圏を含む全道的な普通列車の見直しを図る
- 今後も鉄道事業を継続するために、固定費を含めた経費節減を図る

2 実施概要

(1) 札幌～函館間 特急「北斗」 定期24本 → 定期20本＋臨時2本

- ・ 夜間帯でご利用の少ない上下1本ずつの取りやめを検討します。
(経費節減の他、夜間の保守作業間合いの拡大も可能となり、作業の効率化が期待できます)
- ・ 上下1本ずつを臨時列車とし、ご利用状況にあわせた運転を検討します。
(年間30日程度の運休)

(2) 札幌～旭川間 特急「カムイ」・「ライラック」 定期48本 → 定期44本＋臨時4本

- ・ 上下2本ずつを臨時列車とし、土休日と繁忙期などご利用の多い日の運転を検討します。
(年間230日程度の運休)

(3) 旭川～網走間 特急「大雪」 定期4本 → 臨時4本

- ・ 特急「大雪」を臨時列車とし、ご利用状況にあわせた運転を検討します。
(年間50日程度の運休)
- ・ 札幌直通の特急「オホーツク」4本は現行体系を維持します。

[旭川～網走間の運転本数]

	現 行 ⇄ 見直し後	
オホーツク	定期4本	
大 雪	定期4本	臨時4本
計	8本	

(4) 旭川～稚内間 特急「サロベツ」 定期4本 → 定期2本+臨時2本

- ・特急「サロベツ」2本を臨時列車とし、ご利用状況にあわせた運転を検討します。
(年間30日程度の運休)
- ・札幌直通の特急「宗谷」2本は現行体系を維持します。

[旭川～稚内間の運転本数]

	現 行 ⇄ 見直し後	
宗 谷	定期2本	
サロベツ	定期4本	定期2本 臨時2本
計	6本	

(5) 特急「北斗」・「おおぞら」の減車

- ・通常の運転は5両編成とし、ご利用状況にあわせて増結を行います。

「北斗」 現行7両 → 5両

「おおぞら」 現行6両 → 5両

(6) 札幌圏列車の一部見直し

- ・全体的なご利用の減少にあわせて、10本程度の列車の見直しを検討します。
- ・輸送力の適正化を図るため、10本程度の列車の土休日運休を検討します。

(7) 普通列車の一部見直し

- ・ご利用の少ない列車の見直しを検討します。

(函館線(滝川～旭川間)、留萌線、石北線、宗谷線(旭川～名寄間)
根室線(滝川～新得間・新得～帯広間)

(8) ご利用の少ない駅の見直し

- ・ご利用状況をふまえ、極端にご利用の少ない駅の見直しを検討します。
(ご利用の少ない駅のうち36駅について、廃止または自治体による維持管理への移行を関係する沿線自治体と協議しており、18駅程度を廃止の方向で協議中)

3 経費節減額

年間 約5.5億円

(減便・減車 年間 約5.0億円、駅の見直し 年間 約0.5億円)

4 実施時期

2021年春予定

(詳細が決まりましたら改めてお知らせいたします)